

平成31年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (最終評価段階)

令和2年2月25日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
より良く生きるための基礎・基本の習得(学力、社会性、人間性) (1) 家庭や地域社会との連携を強化し、21世紀の新生洛東高校として信頼される学校づくりに努め、次代の社会を担う人材の育成を目指す。 (2) 個人の責任と義務を尊重し、道徳性の高い行動力のある人間の育成に努める。 (3) 生涯にわたって学ぶための基礎・基本を習得し、社会の変化に対応できる能力や創造性に富む豊かな人間性や社会性の育成に努める。 (4) 勤労とボランティア精神の資質を養い、人権を尊重し、社会の一員としての自覚と行動ができる人間の育成に努める。		(1) 観点別評価にもとづく授業の改善と活性化を検討し、研修会も行ったが教科内での研究にとどまっておらず学校体制となるまでには至らなかった。来年度、生徒や保護者に、各単元学習でどういう力を身に付けられるのか、評価の基準は何かをわかりやすく提示する必要がある。それとともに、生徒が授業に主体的に取り組む必要性を感じるように、授業改革を進めていかなければならない。 (2) 生徒指導部を中心としたきめ細かな身だしなみ指導によって、校内ではおおむね落ち着いた身だしなみで生活できている。しかし、校外では以前と変わらずの身だしなみで登下校しているとの情報がある。来年度も、身だしなみについて粘り強く意識付けを行う必要がある。そして、本年度以上に全教員で指導を行う体制を整えていく必要がある。 (3) 学校幹線の就職は、早い時期からの度重なる指導により内定率100%を達成できた。しかし、就職・進学とともに、内定や合格後の学校生活に問題のある生徒が見られた。内定や合格がゴールになることがないよう、今まで以上に指導を継続していく必要がある。 (4) 公募・一般入試では、中堅私大難化による影響もあり苦戦した。模試や後期補習受講者が激減し、客観的なデータが乏しく自己分析ができていないまま受験に臨む姿が見られた。受験に臨む心構えや、進学のメリットについて総合的な探究の基礎を築く必要がある。また、就職・進学とも基礎学力は不可欠であり、毎日の学習・学校生活を卒業まで継続して大切にさせる取り組みが必要である。 (5) 特別支援コーディネーターを中心として個々の生徒のニーズに応じた教育的支援を行った。しかし、校内美化の面では不十分であった。生徒と共に学習環境の整備をしていくという視点で清掃指導の周知徹底を計画的に進めていく必要がある。 (6) 地域連携は計画していた以上の取組が実施できた。看護学校・外国語専門学校・小学校・地域住民から連携を有意義と思われたい継続を望む声をたくさんいただき、生徒たちの学習への取組のモチベーションアップにつながっている。特に小高連携や医療福祉の探究活動で、生徒たちが試行錯誤を繰り返しながら自ら工夫し、受け手の立場に立って考え、他者につながる能力を育成することができた。来年度は他教科でも地域とつながる「探究」活動を模索していかなければならない。		(1) 粘り強い全体指導に加え、教員が生徒と関わる時間を積極的に増やし、個別に具体的な指導が行える体制を整える。 (2) 継続した生徒の学習意欲の向上のために、観点別評価にもとづく授業の改善・工夫を行う。また、その手段の一つであるICT活用やアクティブラーニングの導入について教員個々が具体策を講じる。 (3) 基礎学力向上のために「わかる授業」を目指した指導方法の工夫と、家庭学習の習慣化を図るための方法を考え実践する。 (4) 早期から生徒の進路希望を把握した上で、個々の学力・状況に応じたアドバイス・面談指導を加え、それぞれのレベルに応じた学力の伸長を達成させる。 (5) 規範意識・環境意識を伴った社会に通用するコミュニケーション能力を育成する。またすべての教職員が、学校生活の全ての取組を通して生徒にそれらの意識の重要性を体感させる。		
評価領域	重点目標	具体的方策		評価		成果と課題
		中間	最終	総合		
教育課程 学習指導 (教務部)	新学習指導要領に基づく教育課程の編成について検討する。	・特にプログレスコースにおいては高大接続改革を視野に入れた教育課程の編成を行う。 ・2学年での総合的な探究の時間について、各選択科目での実施に向けた内容を検討する。また、1年生は次年度に向けて総合的な探究の基礎を築く内容を実施する。		C	B	・令和2年度入学生教育課程は3年次に単位数の変更と、履修科目数の増加によって学習内容の幅を広げる改定を行った。 ・令和2年度2年生の「総合的な探究の時間」はそれぞれの教科の特性を活かした探究活動を検討し、指導計画を作成した。 ・より授業を活性化させるための評価の方法について原案を提示し、教科主任会議で検討、一致した指導体制が確立できるようにする。
	授業の質向上および、生徒の基礎学力定着を図る。	観点別評価にもとづく授業の改善と活性化を検討し、生徒が主体的に取り組む協働学習を取り入れた授業改革を進める。また、Classiの導入や、電子黒板などのICT活用による授業改善について検討する。		D	C	
	教育計画の適正な実施を図る。	各分掌の計画を調整し、充実した教育計画の作成・実施に努める。また、作成した教育計画を見直し、改善を図る。		C	C	
特色推進 広報活動 (総務企画部)	全教育活動の中で、特に探究活動を取り入れた授業を中心に、中学生・保護者・地域へ積極的な広報を行う。 校内のICT活用を推進し、授業改善へ向けた教員の取り組みを支援する。	社会に通用するコミュニケーション能力の育成や学習意欲の向上に向けて取り組まれている授業について、学校内外に向けて広報する。 ICT活用やClassiの運用及び活用を推進するために関係分掌と連携を密にとり、活用事例を集約する。		D	B	学校公開や学校ホームページにおいて、校外への広報はある程度達成できた。しかし、特色ある授業について学校ホームページでの広報が不十分であった。また、校内への広報としては洛東日より4回発行できた。昇降口のモニターやSNSを活用し、より充実した校内広報を行うことで、生徒による校外への広報にもつなげていきたい。 Classiについては、導入年度としてある程度の運営はできた。今後は、活用促進を目指して、運用システムを構築していきたい。
	身だしなみを中心とした基本的な生活習慣を確立するために、全教職員体制で指導を行う。 問題行動や非行の防止に向けて、自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。	服装や髪型、化粧、装飾品など身だしなみについて、全教職員で粘り強く指導を行う。また、全教職員が一致した指導ができるよう、指導留意点や細かな部分について周知徹底を図っていく。 生徒指導部より定期的に発行し、生活上の注意事項(交通ルールや交通マナーも含む)や盗難防止等の啓発指導を適宜行い、自己管理能力を高め社会性を育成する。		C	B	
生徒指導 (生徒指導部)	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対応する。	いじめに向かわない態度・能力を育成するために、人権学習はもとよりあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生の際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。		B	B	生活上の注意では、外部から交通関係の苦情や校内での盗難が発生した。来年度は、生徒会と連携をさらに充実させ、生活上の注意も視覚的に訴えていきたい。 いじめアンケートや学年団との連携を密に行うことで、いじめに関する情報共有が行えた。 人権学習が形式的になってきているため、各HRでの対話型学習を計画していく。
	就職指導は、2年生秋から実施し高校生の就職制度を理解させるとともに、就職に向けて社会の常識を身につけさせ学習に全力で取り組ませる。 学校紹介を希望する生徒の、就職内定率100%を目指す。	就職指導は、2年生秋から実施し高校生の就職制度を理解させるとともに、就職に向けて社会の常識を身につけさせ学習に全力で取り組ませる。 社会人としてのマナー、基本技能の修得や対人能力の向上を身につけさせる。さらに実社会で対応できるようにロールプレイングを用いて実践を繰り返し練習させる。		B	B	
進路指導 (進路指導部)	面接指導を徹底する。入退出動作の反復練習、文で返事ができる姿勢、言葉のキャッチボールができるまで練習させる。また、社会人の面接官をお招きし、本番モードでの面接練習の機会を設定する。	面接指導を徹底する。入退出動作の反復練習、文で返事ができる姿勢、言葉のキャッチボールができるまで練習させる。また、社会人の面接官をお招きし、本番モードでの面接練習の機会を設定する。		B	A	3年生の就職については、学校紹介を希望する生徒は具体的な方策を実践することで、本人の希望した職種への就職内定率100%を達成できた。次年度は、今年度以上に学年部との綿密な交流を行うことで引き続き目標としていきたい。 3年生の進路については、センター試験の受験者が10名と昨年より増加した。問題の難易度が高くと影響を受けやすく、結果は満足できるものではなかった。しかし、少人数ではあるが生徒が最後まで粘る姿勢を見せてくれたことが評価できる。私立四年制大学では、AO入試に苦戦した。短期大学・専門学校では、早期の入試を受験することで、ほぼ希望通りの進路を実現している。看護医療系の進路においては定員厳格化の結果、専門学校も難化傾向となり、希望者の学力の底上げを図る必要性を感じている。模擬試験は、進路希望の生徒は11月まで積極的に受験した。次年度も伝統として引き続き姿勢を育てたい。小論文の個別指導は、前期・後期に分けて実施している。多くの先生方の協力を得て、一定の成果を得た。面接指導も随時行い、生徒も積極的に利用した。通年補習は、数年前から一定の流れが定着した。 2年生に対しては、共通テストの模擬試験を体験させることで、少しでも先の不安を取り除くことができた。一方、進路補習や就職指導に対する姿勢に関してまだまだ意識がつけができておらず、具体的には、「早期から」というキーワードを掲げ進路希望を明確にし、適切な時期に繰り返し情報を伝えることが必要である。今年度は、2年生に1・2学年進路希望者説明会および個別相談を企画している。また、進路部通信25号「4年制大学進路部通信」14号を発行し、進路行事の事前事後を中心に、進路について考える機会を持てるようにした。
	進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	入試に対応できるように、適切な進路補習講座、面接対策講座を設定し定例で開催する。また、志望理由書書き方講座、小論文対策の説明会・模擬試験を実施する。		B	A	
	進路希望実現率が100%になるように、1・2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	進学に対する意識を高めるために、模擬試験を積極的に受ける姿勢を育て、その結果やデータを活用できるようにさせる。 大学入試改革に備え、研修会を実施し情報の収集と提供を図る。		C	C	
		早期から生徒の進路希望を把握し、長期的な受験・学習計画の作成を促す。また、他分掌と連携し毎日の学習・学校生活を大切にすることを促す。		C	B	
		進路別・分野別説明会を実施し、学校・入試方式ごとに適切な情報の提供を行い、進路に対する意識を高め希望進路の達成を促す。		B	B	
学校保健 学校安全教育 特別支援 (保健部)	薬物に対する正しい知識と理解を深める。	各学年において、薬物乱用防止教室を実施する。		B	A	・薬物乱用防止教室においては継続して実施していかなければならない。 ・心に寄り添った相談や指導とともに、更に関係者と連携して必要がある。 ・生徒のゴミ分別意識を高めることにより削減に効果があったがさらに削減に努める。
	生徒の理解と支援の充実を図る。	関係者との連携を密に図り、課題のある生徒に対しスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーとともに支援を行う。		C	B	
	環境問題に対する意識の向上を図る。	ゴミ分別の徹底を図り、ゴミ排出量を前年度の10%削減を目指す。		B	B	
読書指導 視聴覚教育 (図書視聴覚部)	読書構成の適正化を進め、読書の更新に努める。魅力的な図書を紹介する企画を積極的にを行い、読書啓発のため、図書館だより、図書委員会だよりを定期的に発行する。	読書構成の適正化を進め、読書の更新に努める。魅力的な図書を紹介する企画を積極的にを行い、読書啓発のため、図書館だより、図書委員会だよりを定期的に発行する。		B	B	10月からの消費税増税を視野にいれ、読書の更新を早めた。今年度は11月に一斉読書活動を実施し、教科、学年の協力を得ながら全校体制で読書啓発に努めた。今後も一斉読書活動を念頭に置いて読書構成の適正化を進める。また、教科の授業に合わせた形で、学習支援を行った。利用の少ない教科においても図書館利用できるように相談に応じ、視聴覚機器の利用に関しては、説明会に換え、個別に対応していった。来年度に向け、利用マニュアルを整備していく。
	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。	利用者のニーズを把握し、教科と連携を図りながら、生徒の学習支援を行う。 視聴覚機器活用のための説明会を実施し、授業の利便を図る。		B	B	
				C	C	
教育環境整備 (事務部)	施設・設備の維持・安全管理をはかる。	「安心・安全」を最優先に週に1回校内巡視し、危険箇所の早期発見・対応を行う。		C	B	巡視する中で発見した危険箇所については早期対応することができた。校内対応できない危険箇所については順次業者に依頼し修理を行った。 ヒアリング・配分は昨年度より早期に行えた。また追加予算について分掌からの要望に応じて執行できた。ただ、各分掌教科間での備品の共有など教科分掌の枠を超えた使用については進めることができなかった。 使用量について、電気は前年度比98%、ガスは87%、水道は105%だった。(1月末現在)今後も学習環境には配慮しつつ、不要電灯の消灯等節電等呼びかけるとともに、特に来年度は水道使用量の削減に取り組む。
	各分掌・教科のヒアリングを実施し効果的な配分と執行を行う。	各分掌・教科のヒアリングを実施し効果的な配分と執行を行う。		C	C	
	特色ある教育活動や広報活動等の実施のための学校予算の効果的執行を行う。	節電等呼び掛け、光熱水費の削減に取り組み、使用量前年度比3%減を目指す。		C	C	
第1学年部	授業に真面目に取り組むこと、時間やルールを守ることに指導を徹底し「やるべきことをしっかりとやる」姿勢を持たせることにより、「自分ができる」という自信を持たせる。	欠席・遅刻生徒について保護者連絡を密に行うとともに、アルバイト原則禁止について学年としての指導を行い、学校定着を図る。 授業態度に問題のある生徒について学年としての指導を行うとともに、教務部、生徒指導部と連携して段階的な指導を行い、授業を大切にすることを身に付けさせる。 学年全体で身だしなみやあいさつについて指導を徹底する。 学年全体で検定試験を受験させ、学習習慣の定着を図る。		C	C	・遅刻指導は、生徒指導部から報告があった生徒に加え学年で集計して8時55分以降に遅刻した生徒も対象とした。定期考査ごとに反省作業(A4反省文)をさせたが成果はなく、年度後半に向かつて遅刻は増加した。2月より毎日放課後に呼び出し指導を行っており、遅刻防止につながるか検証していく。 ・欠席生徒についての保護者連絡は密に行うことができ、欠席が連続する生徒に対しては迅速に家庭訪問を行った。また、教務部長同席の面談を行うなどして欠席状況が改善する生徒もおり、一定の成果があった。 ・アルバイト原則禁止については、許可を出す場合は必ず保護者と直接連絡を取るなどして徹底を図ったが、無許可就労の生徒も少なからずいるようである。 ・授業中の携帯使用等については教科担当と連携して適宜指導を行い、一定程度抑止できている。 ・身だしなみについては学年全体で声かけを行うことができた。 ・あいさつについては指導が十分ではない。進路指導の観点からもあいさつについての指導を行っていく必要がある。
				C	B	
				C	B	
				C	D	
第2学年部	生徒個々が周囲から期待される事を理解させ、継続して目標に向け努力させる。一人一人の努力がよい集団作りにつながることを理解させる。良い集団が生徒個々の更なる成長に向かわせる相乗効果で、納得のいく充実感を体験させる事を重点目標とする。	学習時間を増やすため、教科と連携し小テストや宿題に取り組ませる。また、ショート学習を有効に活用したり、週末及び長期休業日に学年課題に取り組ませ、学習が出来る集団を作る。そして、生徒個々に応じた資格・検定の修得に積極的に取り組ませる。 特別活動に継続して取り組む集団を育成する。そのため、生徒の個性により自分の立ち位置を考えさせ、周囲と協力して取り組ませる。ボランティア活動は校内の清掃に留まらず、地域からの期待に応えられ、連携できる生徒を育成する。 身だしなみを自発的に整える意識を高めさせる。校内のみならず、将来において進路実現の場を意識し、校外でも胸の張れる態度を育成する。社会で通用する規範意識を育て、人権の尊重が出来る集団を育成する。		C	C	学習時間を増加させたという実感は持てない。これは生徒達も同感である。ライフデザインコースから模擬試験を受験する人数を増加させることが出来たのは成果である。個々に返されるデータを元に進路実現のために、学習の必要性を伝え実行させた。特別活動に対し、熱心に取り組ませることで、クラスの団結を意識しながら、学年全体のレベルアップに繋げることが出来た。特に研修旅行では時間を守る大切さを集団として意識を高めることが出来た。ボランティア活動に対しては、積極性に欠けるので、自発的に取り組める雰囲気作りをしなければならない。身だしなみの意識は高まってはいるが、校内で出来ていても、校外では求められるレベルには届いていない。社会から認められる生徒となるために、より正しい身だしなみの指導を継続する。
				C	B	
				C	C	
第3学年部	「チーム3年」として、進路実現に向けて努力し、進路決定後も規則正しい学校生活を送るとともに、他者を応援する環境を整える。	・身だしなみ指導を生徒指導部と連携し、引き続き行う。 ・定期試験毎に、学校遅刻の回数が、授業日の1/7以上の生徒に対し指導し、基本的な生活習慣を定着させる。 ・積極的に進路指導部主催の説明会や補習に参加させるとともに、模擬試験も受験させることで、就職・進学とも見通しをもって取り組ませる。 ・定期的な学習時間調査などを通して、自学習・自習の習慣を身につけさせ、進路実現へつなげる。		C	C	・身だしなみ指導及び学校遅刻指導を、入学当初より継続的にやってきたが、指導対象生徒が固定化したにもかかわらず、新たな指導法を見出せないままであった。 ・大学進学希望者に対し、模擬試験の必要性を訴えた結果、今年度はライフデザインの生徒も受験するようになった。しかし、1年次より継続した受験ではなかったため、今後、大学進学希望者には、必須で受験させる組織的な取り組みができるようにしていきたい。
				C	B	
				B	B	
評価の基準 A:10分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)						
学校関係者評価 委員会による 評価	・全体的に「評価」に対して厳しく出し過ぎているのではない。 ・「子どもの虐待」「高齢者の虐待」なども社会問題なので人権学習などで取り組んでいただきたい。 ・生徒指導部の「生徒会の取組」の充実が大切なポイントである。 ・生徒が主体的に取り組む授業や部活動への参加は生き生きとした大変良い。 ・進路指導で「早期から」は大切だが、本人の目標設定(興味あることを見つけ、実現するための力を養成する)等が「早期から」ならうまくいこうと思う。		・無許可就労の生徒が少なからずいるようとのことだが、保護者との話し合いを強化する必要があると思われる。 ・各分掌と学年団の連携を密にした取組や指導は情報共有の上で大切である。 ・12学年の指導は、1年でうまくいかなくても3年間であればよいのではない。 ・地域にもっと学校の活動を発信してほしい。		・進路指導「早期から」は大切だが、本人の目標設定(興味あることを見つけ、実現するための力を養成する)等が「早期から」ならうまくいこうと思う。 ・交通マナーについて、地域住民の苦情は減少してきており、教職員の指導が浸透してきていると思う。	
	次年度に向けた改善の方向性	・観点別評価の導入によって生徒に、日々の授業や一つ一つの取組に集中して取り組ませ、達成感を味わわせることに努める。 ・模擬試験の積極的な受験を促すとともに、返却データの活用を強化していく。また、入試改革に伴って、授業の内容を含め学習指導方法を改善していけるような研修会を早期に持つ。 ・全員が一致してできる生徒指導を目指して、指導内容の視覚化を含め考えていく。 ・遅刻とアルバイトの対処方法について議論を重ねていく。 ・一年の最初の段階(オリエンテーション等)で勉強の仕方、進路についての考え方(ノートの取り方)等を徹底していく。				